



自分の可能性を信じる

近森 藍璃
東北大学博士課程在籍

皆さんは「自分にはできない、興味がない」という理由で、何かへの挑戦を避けたことはありますか？

そんな方に、この文章が挑戦への一歩を踏み出す助けとなってくれば幸いです。

私は、昔、自分のことに対して視野が狭く、挑戦できる機会があっても興味を持てなかったり、難しいからという理由をつけたりして、いつも挑戦を避けていました。自分の得意・好きなことにだけに注力していたのです。

「通訳者になる」という私の今の夢も、英語が得意だからという理由で決めたものでした。高校生のときに決心してからは努力を重ね、通訳としての未来計画もたてて意気込んでいました。大学生になると、「英語以外の言語も扱えると多くの人の手助けができる」という理由で、中国語を学ぶために北京へ留学することを決めました。



北京の高層ビル群

留学前、私は先輩に「より良い通訳者になるために留学中にすべきことは何だと思えますか」と尋ねてみましたが、答えは以外にも「通訳に固執しすぎるな」、「自分の興味関心や可能性を自分で制限してはいけない、計画しすぎずに」というものでした。

その時はあまり真剣に受け止めていなかったのですが、留学中は一分一秒が予期せぬことだらけで、毎日のように先輩の言葉が頭をよぎりはじめました。

私は、せっかくの機会だと思い、何でも挑戦してみることにしました。早速、現地で少し興味を持ち始めた言語学の授業を受講することにしました。これが思わず大変で苦労しましたが非常に面白く、すっかり言語学に熱中した私は自分の新たな一面に気づきました。通訳者の夢を胸に抱きつつも、日本に帰ってからも言語学の面白さにとりつかれ、勉強を続けることになったのです。

KOCHI IYEO 30th Anniversary Newsletter vol.13



東北大学キャンパス

大学4年生になると、私は言語学の研究をするために大学院進学を決意しました。元々、「大学院への進学は無理」だと思っていたので進路からは除外していた選択肢でしたが、一世代の決心で入試準備に取り組み、何とか東北大学の修士課程に入学することができました。

入学後もハードな研究と生活が続きましたが、自分の可能性を信じてやりとげた経験は大きな自信となりました。2年間の修士課程を無事修了した私は、今、博士課程の学生として言語学の研究を続けています。

ありがたいことに、ずっと夢だった通訳としての仕事も時々いただき英語の運用力もさらに高くなっています。通訳は、「有備無患(備えあれば憂いなし)」と言われるように、事前準備が大切です。大学院で得た情報収集能力や思考力、研究を支え続けた体力と根性が、私がずっと描いてきた「より良い通訳者」になるための一助となっています。

このような経験から、私は自分の夢に挑戦するのも、その夢を諦めるのも、自分次第だと痛感しました。難しいこと、興味のないこと、周りから反対されてしまうことに挑むのは、容易ではありません。ただ、自分の可能性を信じ、挑戦する勇気を持つことで、自分自身をより大きく成長させることができます。私の経験が、皆さんが新たな一歩を踏み出すきっかけになりますように。

私の研究内容

最後に私が今取り組んでいる研究内容を少し紹介します。

私たち人間は、外国語を勉強するように勉強しなくても自然に母語を話すことができます。

さらには、「そこにいる虹色の猫を飼っている男の人は私のお兄さんです」のように、今、「世界中で初めて発せられたであろう文」であっても母語話者はその意味を理解することができます。ほかにも、日本語を習いたての留学生が「私は本に読んだ(意図: 私は本を読んだ)」と言ったときに、日本語母語話者は(たとえ文法的に説明できなくても)その文が誤っていることがわかります。

これらは、私たちが無自覚な母語の知識を有しているから可能になっているのです。

では、この「無自覚の知識」である言語知識とはどのようなものなのでしょうか？

また、その無自覚な知識を私たちはどのように獲得しているのでしょうか？

私は「生成文法」という理論的な枠組みのもとで、今挙げたような問いの答えを探求し、言語の本質的な解明を目指しています。

より踏み込んで言うと、私は「今泣いている女の子に昨日会った女性と来週面談をする」といったような複文の時間解釈を研究しています。謎多き、非常に魅力的な言語学の世界を皆さんも是非一度、のぞいてみてください。

参考: 中村捷, 金子義明, & 菊地朗. (2001). 生成文法の新展開: ミニマリスト・プログラム, 研究社.

KOCHI IYEO HP



2024年7月14日発行

発行者
高知県青年国際交流機構
(KOCHI IYEO)

会長 前田正也

☎ 090-9552-0022

✉ xiwang@yacht.ocn.ne.jp